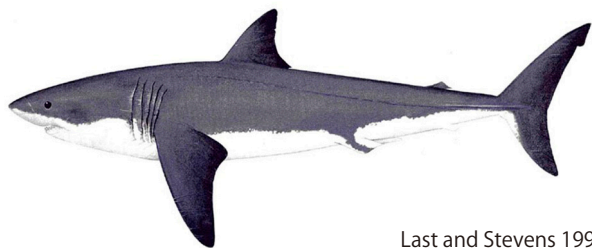


# ホホジロザメ 日本周辺

Great White Shark, *Carcharodon carcharias*



Last and Stevens 1994

## 管理・関係機関

国際連合食糧農業機関 (FAO)  
絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約、CITES)

## 生物学的特性

- 体長・体重：全長 6 m、体重 1.9 トン程度が最大と見積もられているが、稀にそれより大きな個体も報告されている。
- 寿命：おそらく 22 年以上、放射性炭素同位体に基づく推定では、最大で雌で 40 年、雄で 73 年は生存するとされている。
- 成熟開始年齢：雌 7～13 歳、雄 4～10 歳
- 繁殖期・繁殖場：2～3 月 (沖縄)、4～5 月 (南西日本沿岸域)
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯の沿岸域
- 食性：硬骨魚類、さめ類、海棲哺乳類、海鳥、海亀など
- 捕食者：シャチ

## 利用・用途

鰭はフカヒレスープの原料に、肉は食用になる。歯や顎は工芸品として高価格で取引されるが、日本ではほとんど利用されていない。

## 漁業の特徴

世界的に本種を対象とする漁業はなく、漁獲情報は不明である。わが国では、定置網に迷入し漁獲されることがある。

## 漁獲の動向

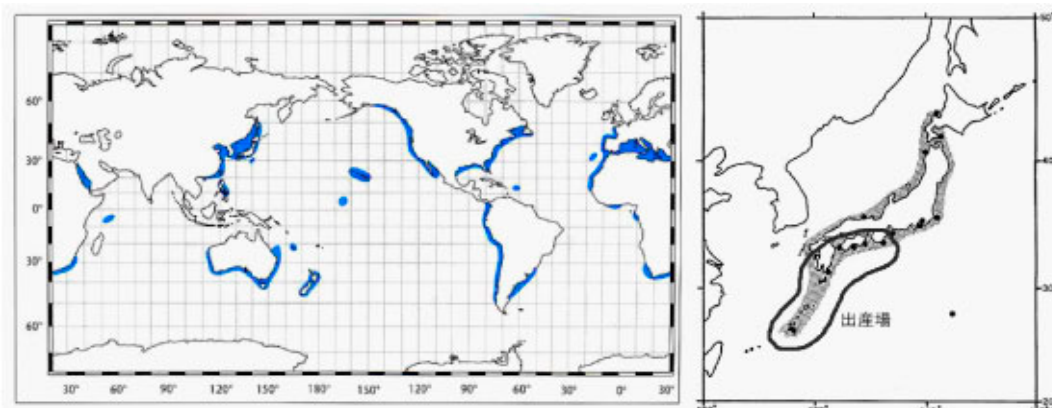
文献や新聞などに記録された日本周辺海域における本種の年別出現数をみると、過去 50 年間にわたりほぼ均等な頻度で出現が報告されている。1992 年に 14 件、1993 年に 7 件の報告があるのは、1992 年の本種による事故でマスメディアの関心が集まった結果、例年よりも報告例が増えたためと考えられている。2000 年以降は、出現記録のない年もあるが、ほぼ継続的に確認されている。2017 年において国内の出現情報は確認されていないが、北大西洋やオーストラリアなど一部の地域では、人的被害や目撃数の増加が報告されており、規制の効果による個体数の増加や餌生物の増加などの要因が検討されている。

## 資源状態

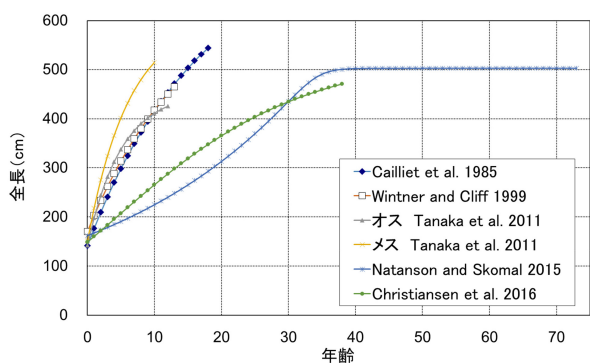
本種を対象とする漁業はなく、本種資源を定量的に分析できる資料はないため、日本周辺海域における本種の資源動向は不明である。全国の定置網に偶発的に迷入した個体の記録等があるのみである。定置網をはじめとする沿岸漁業で漁獲された個体は、放流されるものもあり、水揚げされる個体は一部に過ぎないと考えられている。主に定置網漁業での混獲が年に 1～2 件報告されるものの、わが国では基本的に本種を対象とした漁業は無いため、漁獲圧は低いと考えられる。

## 管理方策

本種の規制措置はない。我が国には本種を対象とした漁業はなく、積極的な漁獲努力は行われていないので、特に管理方策を策定する必要はないと考えられる。なお、本種が絶滅の危機にあるとして、2004 年の CITES 第 13 回締約国会議では、附属書 II への掲載がオーストラリアとマダガスカルから共同で提案され、採決の結果、附属書 II への掲載が採択された。このことから国際取引が規制されるようになったが、我が国はさめ類を含む海産種の資源管理については、漁業管理主体である RFMO または沿岸国が適切に管理していくべきとの立場等から、ホホジロザメの附属書 II への掲載に関して留保を付している。



日本周辺と世界のホホジロザメの分布



ホホジロザメの成長曲線

ホホジロザメ (日本周辺) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	不明
資源動向	不明
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	調査中
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	年間 1 ~ 2 個体程度の出現が報告されている
管理目標	なし
資源評価の方法	検討中
資源の状態	検討中
管理措置	なし
最新の資源評価年	予定なし
次回の資源評価年	予定なし